

平成23年度実施「魅力と特色ある県立高校づくりについてのアンケート」集計結果等の概要【訂正版】

神奈川県教育委員会教育局教育指導部高校教育企画課

平成23年度、全県立高校を対象に行った「魅力と特色ある県立高校づくりについてのアンケート」の集計結果を取りまとめました。今後、分析を進めながら、魅力と特色ある県立高校づくりに生かしてまいります。

I 実施対象

| | |
|---------|---|
| 生徒 | 全ての県立高校（全課程）の卒業年次の生徒 |
| 保護者 | 上記生徒の保護者 |
| 学校評議員等 | 「県立高校改革推進計画」に基づき開校した、新しいタイプの高校37校（対象校は別紙参照）の学校評議員等 |
| 新タイプ校教員 | 「県立高校改革推進計画」に基づき開校した、新しいタイプの高校のうち、生徒が卒業年次に達している高校31校（対象校は別紙参照）の常勤教員 |

II 実施時期

平成23年12月～平成24年3月

III 集計の区分

※ 生徒、保護者向けのアンケートは、入学時の区分で実施しているため、※印の学校を除いています。

| 課程 | 学科 | 学びのしくみ | 校数 | 対象校 |
|-----|------|--------|-----------------------------|---|
| 全日制 | 普通科 | 学年制 | 101 | 鶴見、横浜翠嵐、城郷、港北、新羽、岸根、霧が丘、白山、市ヶ尾、田奈、元石川、川和、荏田、新栄、希望ヶ丘、旭、松陽、瀬谷、瀬谷西、横浜平沼、光陵、保土ヶ谷、舞岡、上矢部、金井、横浜南陵、永谷、柏陽、横浜緑ヶ丘、横浜立野、磯子、氷取沢、釜利谷、新城、住吉、川崎北、多摩、生田、百合丘、生田東、菅、麻生、横須賀、横須賀大津、追浜、津久井浜、大楠、逗子、逗葉、鎌倉、七里ガ浜、大船、深沢、湘南、藤沢西、藤沢清流、湘南台、茅ヶ崎、茅ヶ崎北陵、鶴嶺、茅ヶ崎西浜、寒川、平塚江南、高浜、大原、大磯、二宮、秦野、秦野曾屋、伊勢原、伊志田、西湘、足柄、大井、山北、吉田島総合、厚木、厚木東、厚木北、厚木西、海老名、有馬、愛川、大和、大和南、大和東、大和西、座間、綾瀬、綾瀬西、麻溝台、上鶴間、相模原青陵、相模大野、上溝、相模原、上溝南、橋本、相模田名、城山、津久井 |
| | | 単位制 | 9 | 神奈川総合、横浜旭陵、横浜桜陽、横浜栄、川崎、三浦臨海、平塚湘風、小田原、厚木清南、（※藤沢清流、※相模原青陵） |
| | 総合学科 | 単位制 | 10 | 鶴見総合、横浜緑園総合、横浜清陵総合、金沢総合、大師、麻生総合、藤沢総合、秦野総合、座間総合、相模原総合、（※吉田島総合） |
| | 専門学科 | 学年制 | 17 | 神奈川工業、二俣川看護福祉、商工、磯子工業、川崎工科、向の岡工業、横須賀工業、藤沢工科、平塚農業、平塚工科、平塚商業、小田原総合ビジネス、小田原城北工業、吉田島総合、厚木商業、中央農業、相原 |
| 単位制 | | 5 | 横浜国際、横須賀明光、海洋科学、神奈川総合産業、弥栄、 | |
| 定時制 | 普通科 | 学年制 | 8 | 横浜翠嵐、希望ヶ丘、横須賀、追浜、湘南、茅ヶ崎、伊勢原、津久井 |
| | | 単位制 | 3 | 川崎、小田原、厚木清南、（※湘南、※相模向陽館） |
| | 総合学科 | 単位制 | 5 | 磯子工業、向の岡工業、平塚商業、秦野総合、神奈川総合産業 |
| | 専門学科 | 学年制 | 3 | 神奈川工業、平塚農業初声分校、小田原城北工業 |
| 通信制 | 普通科 | 単位制 | 2 | 横浜修悠館、厚木清南 |

IV 実施対象者数及び回答者数

生徒の回答者数及び回答率

| 区分 | | 対象者数 | 回答者数 | 回答率 | |
|-----|------|----------|----------|----------|--------|
| 全日制 | 普通科 | 学年制 | 26,253 名 | 22,267 名 | 84.8 % |
| | | 単位制 | 2,029 名 | 1,678 名 | 82.7 % |
| | 総合学科 | | 2,238 名 | 1,801 名 | 80.5 % |
| | 専門学科 | | 4,549 名 | 3,865 名 | 85.0 % |
| 定時制 | | 1,029 名 | 747 名 | 72.6 % | |
| 通信制 | | 379 名 | 157 名 | 41.4 % | |
| 全体 | | 36,477 名 | 30,515 名 | 83.7 % | |

保護者・新タイプ教員の回答者数及び回答率

| | 対象者数 | 回答者数 | 回答率 |
|---------|----------|----------|--------|
| 保護者 | 36,477 名 | 12,365 名 | 33.9 % |
| 新タイプ校教員 | 1,736 名 | 1,257 名 | 72.4 % |

V 結果の概要（次頁以降）

1 生徒向けアンケート結果

- (1) 高校生活を振り返って、あなたが通っている高校に満足していますか
- (2) キャリア教育によって自分が成長できたと思いますか
- (3) 学校の授業や学習活動が将来の自分のために役に立つと思いますか

2 生徒と保護者の満足度の比較

3 学校評議員からの意見

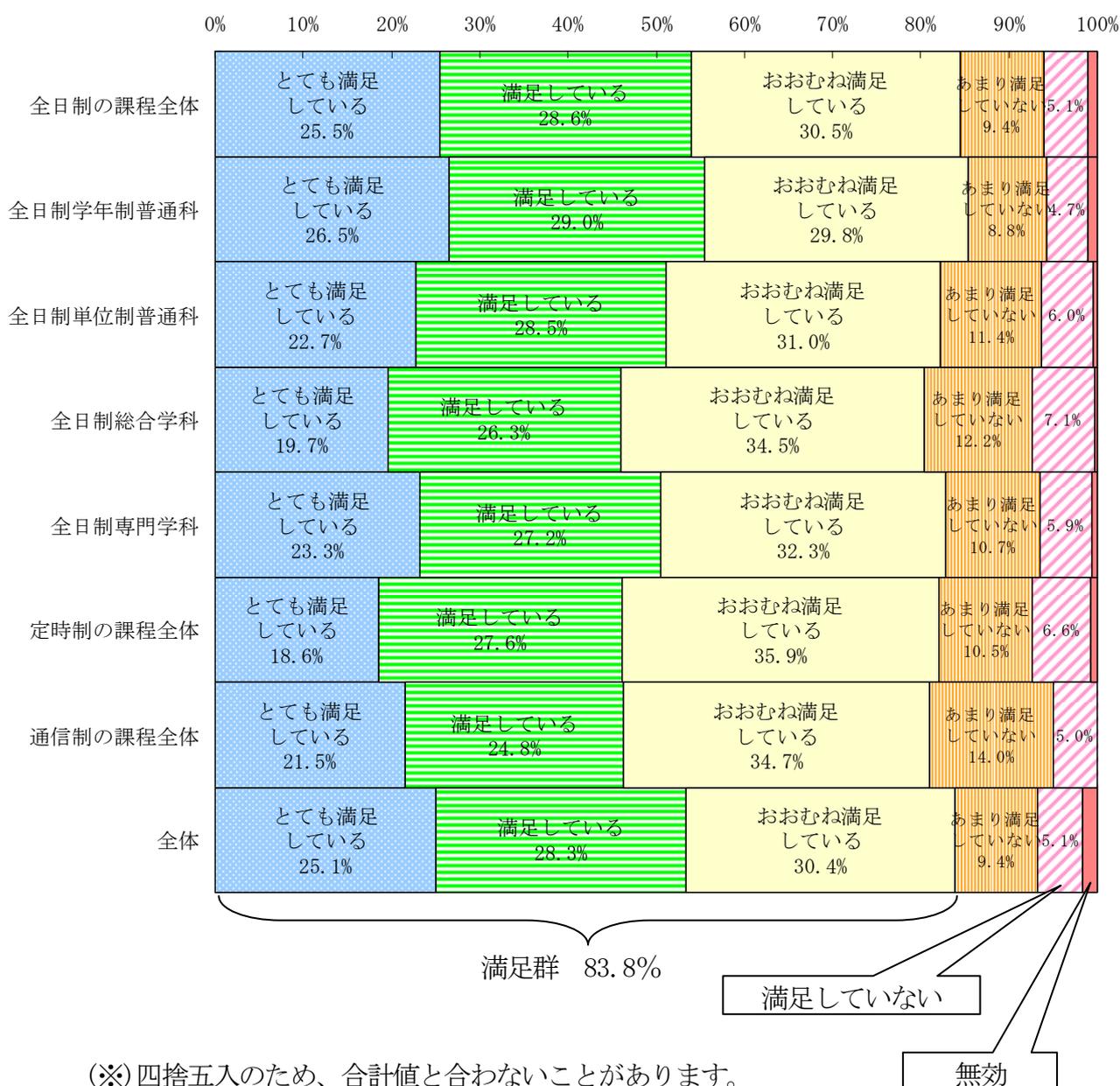
4 新タイプ校教員向けアンケート結果

1 生徒向けアンケート結果

学習希望や興味・関心に応じることができるよう、特色ある科目の設置や、学校行事、部活動等の多彩な活動の提供など、活力と魅力ある県立高校をめざして取り組んできたが、この取組を検証するため、アンケートを実施した。

(1) 高校生活を振り返って、あなたが通っている高校に満足していますか

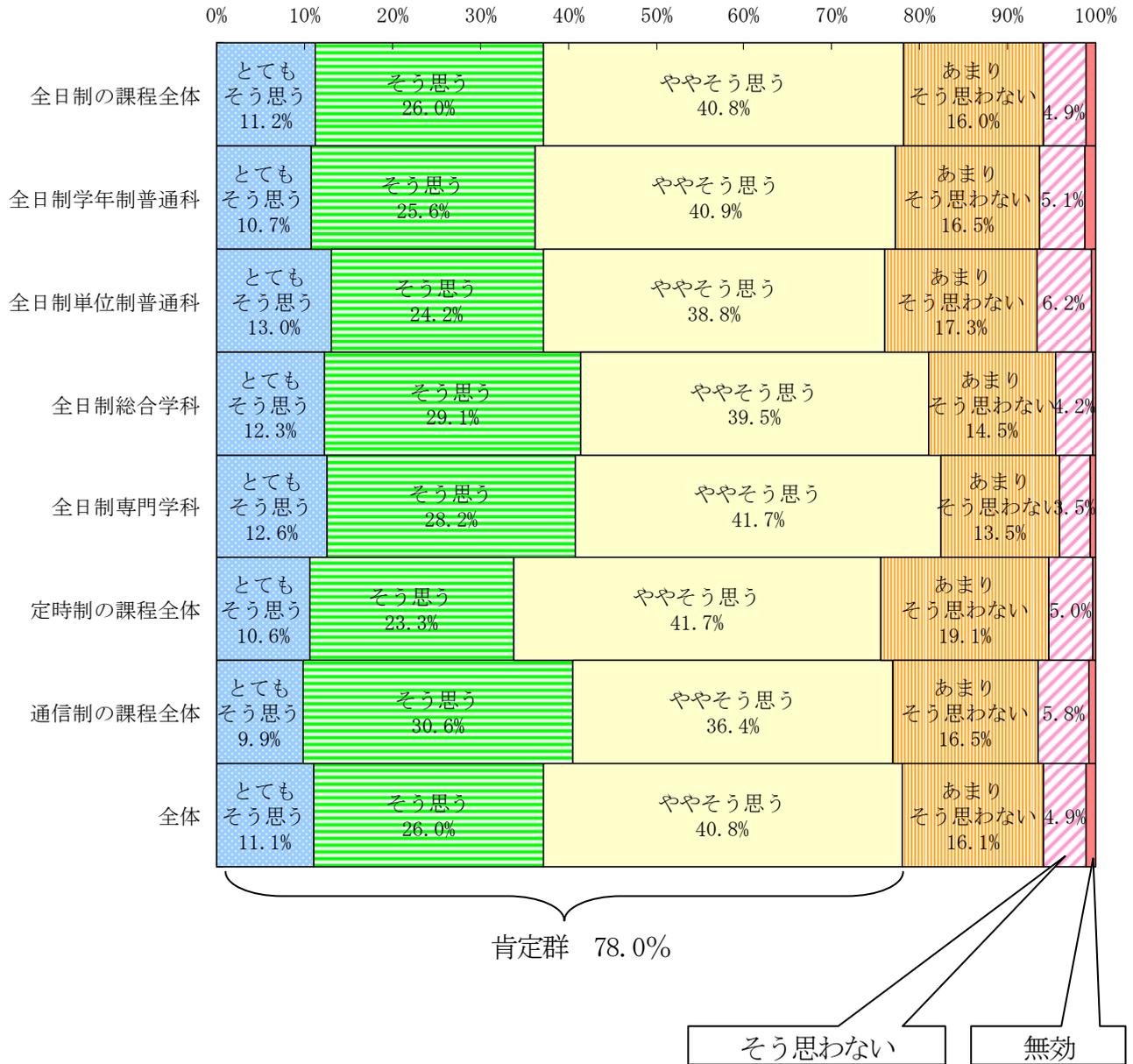
「高校生活を振り返って、あなたが通っている高校に満足していますか。」という設問に対して、「とても満足している」「満足している」「おおむね満足している」のいずれかに回答している生徒（以下「満足群」という。）は、回答者全体の83.8%と平成20年度（83.3%）、平成21年度（83.2%）、平成22年度（85.2%）に引き続き83%以上の高い水準で推移している。



(2) キャリア教育によって自分が成長できたと思いますか

「生涯を通じた自分の生き方・あり方について考え、勤労観・職業観を身に付けるための教育（キャリア教育）により、自分が成長できたと思いますか。」という設問に対して、「とてもそう思う」「そう思う」「ややそう思う」のいずれかに回答している肯定群は、回答者全体の78.0%と平成22年度（77.4%）とほぼ同水準で推移した（平成21年度は74.0%）。

全日制の課程の肯定群は、総合学科80.9%（平成22年度79.6%）と専門学科82.5%（同81.0%）が学年制普通科77.2%（同76.6%）、単位制普通科76.0%（同77.4%）に比べて若干高い割合になっている。

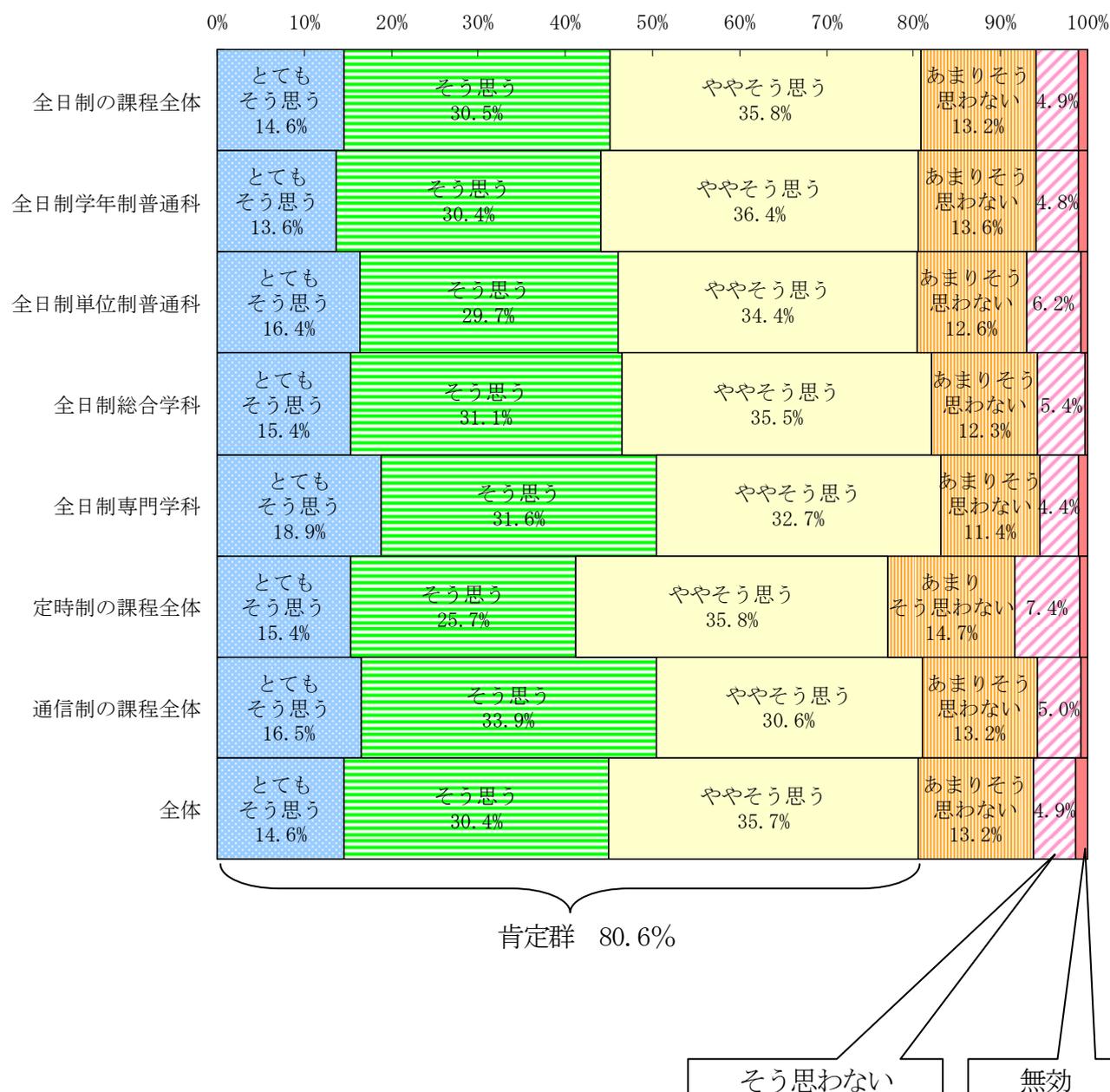


(※) 四捨五入のため、合計値と合わないことがあります。

(3) 学校の授業や学習活動が将来の自分のために役に立つと思いますか

「学校の授業や学習活動が、将来の自分のために役に立つと思いますか。」という設問に対して、生徒全体の肯定群は80.6%で、平成22年度（81.1%）とほぼ同水準で推移した（平成21年度は78.7%）。

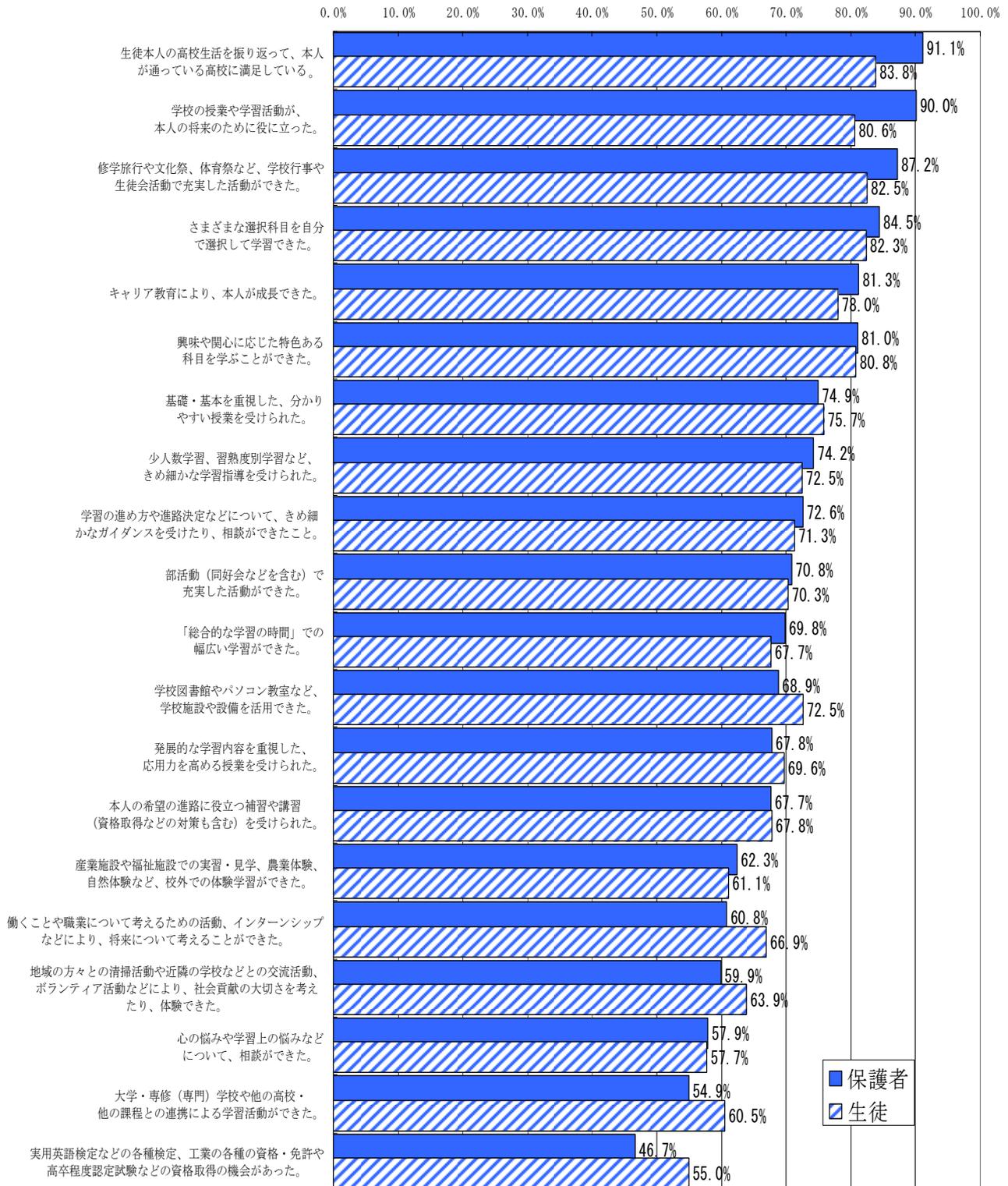
学校種別では、全日制専門学科で肯定群が83.2%（平成22年度も83.2%）と最も高い割合になっている。



(※) 四捨五入のため、合計値と合わないことがあります。

2 生徒と保護者の満足度の比較

生徒と保護者共通の設問について、それぞれの満足群を比較した。「生徒本人が通っている高校に満足していますか」という設問に対する保護者の満足群は91.1%と、生徒の満足群（83.8%）より高い割合になっており、平成22年度の保護者の満足群（91.7%）と同水準で推移した（平成21年度は89.5%）。その他の項目においては、生徒の肯定群と保護者の肯定群はほぼ同じの割合となっているが、「学校の授業や学習活動が本人の将来のために役立った」との設問は、保護者の肯定群の割合が生徒の割合よりも9.4ポイント高くなっている。



3 学校評議員等の意見

【対 象】「県立高校改革推進計画」に基づき開校した、新しいタイプの県立高校37校の学校評議員等

【対象校】別紙参照

【内 容】新校についての印象や新校に期待することなど、新校への意見

【意見集約の方法】各学校において、学校評議員会等を通じて伺った意見を取りまとめた。

(1) 学びのしくみ、授業改善等について

- 授業見学をして非常に面白かった。先生方の声がよく、よく出ている。90分授業とは45分の2倍授業をする見方ではなく、90分の中でどう工夫していくかが問われる。
- 90分授業については、実習型授業が多いという事で始めたが、現状では50分でできることを伸ばしているていねいすぎる授業も見られ、90分の良さを活かさきっていない面もあるのではないかと。
- 授業改善にはいろんなアプローチの仕方があると思う。生徒同士での教えあい・学びあいなど、運用をフレキシブルにする必要がある。
- 授業公開はとても良いことなので推進していただきたい。新任の先生が増えていこうし、ベテランの技術を身に付けるのは大変だろうと思う。なるべく垣根を低くして、教員同士が自由に見合える授業としてほしい。
- 「学力とは何か」について保護者に周知する手段があつてよいと思う。いろいろな取組をされているので、それがどのように学力向上に繋がっているのか、その道筋のような構造図があると、生徒も今何をしているのかということがわかりやすくなると思う。
- 魅力的な科目がたくさんあり、学びたい生徒にとっては素晴らしいと思う。安易で間違った選択をしないように選択指導をお願いしたい。
- 点検や評価は細かくよく行われている。個々の目標に対しても改善がはかられている。継続することが必要。学校全体として育てる生徒像のグランドデザインをはっきりと示すことが必要である。
- 特色ある教科・科目や生徒の学習ニーズを踏まえた多様な選択科目が設置されていて、幅広い学びができるのが魅力である。
- 専門学科としての特色を生かした教育活動が展開されており、成果を上げている。さらに、全校あげての取組を推進してほしい。

(2) キャリア教育について

- インターンシップ受入れに対する協力は惜しまないので積極的に申し出てほしい。
- 生活指導に苦勞している先生の姿を保護者は見ることができない。それらが見えるようにしないと保護者には伝わらない。授業参観等の行事をもっと発信し、保護者が生徒を指導する場面があつてもよいと思う。
- 地域にも優れた人材がいるので、キャリア教育についてぜひ講演会を企画してもらいたい。
- キャリア教育が肥大化しているので、もう一度絞り込みを試みたらどうか。人権教育も同じ傾向にある。
- ボランティアに対する興味を継続していつてもらいたい。
- キャリア教育は職業の観点から捉えられがちだが、「どう生きるか」ということだと言われているので、その視点を再度ふまえてほしい。
- 職業体験・インターンシップに留まらず、上級学校の体験、シチズンシップ教育など自分を見つめることがキャリア教育の基本と位置付けた方がよい。
- インターンシップは企業の求めていることを知る良い機会である。先生方が企業に気を遣いすぎず、もっと頼っても良い。商工会議所との連携も考えられる。

(3) 地域社会との連携や高大連携、体験活動について

- 様々な教育機関との連携や地域の人材を活用した協働授業が展開されており、学習に対する生徒の興味・関心を高め、学習意欲の向上に繋がっている。
- 近隣の保育園や小学校・中学校との交流、地域の自治会行事への参加など、社会参画や地域とのつながりを大切にしており、開かれた学校づくりを推進している。
- 清掃活動や防災訓練等、地域との一層の連携を図りたい。
- 地域連携という点では防災面での高校生の役割が期待される。地域の避難所としての役割も横浜市と連携し今後検討してほしい。
- 中高の連携を今後も続けてもらいたい。生徒会活動の一環として継続を願います。
- 防災対策については、生徒の安全を第一にお願いしたい。連絡体制の整備と、備蓄品の充実を今後の課題としてほしい。
- 地元商店街との連携が深まっていて、イベントへの参加、ベンチ制作など多種にわたり地域活動に参加していることは良いことだと思います、継続していくにあたり、内容の変化や進歩に加えて、新しい取組にもチャレンジして行ってほしいです。
- 商店街や町内会など地域との連携をはかり、街の清掃活動などに参加することで、通学路である街の美化に対する意識も高まると思いますので、校内の美化も含めて積極的に取り組んでほしいです。
- 東日本大震災をうけ、今までと違った形での防災体制を取っておられることを評価する。但し、想定が難しいことが今回の震災を受けわかったことなので、今後もいろいろと考えていてもらいたい。
- 授業を見ていただくことで広く知らしめてもいいのではないかと。「学校へ行こう週間」は回覧板で回るわけでもなく、地域では知らない人が多い。

(4) 広報活動について

- ホームページの情報更新はありがたい。
- ホームページをもっと浸透させるべきである。
- 保護者があまりホームページを見ない傾向がある。入学式の時にホームページの紹介をするなど、もっと保護者にも見てもらえるホームページ作成するべきである。ホームページ上で先生方や生徒会の活動の紹介をして下さい。
- 学校のホームページが充実していて、学校の情報や教育活動について広く情報提供しており、学校の取組や生徒の活動の様子が良くわかる。
- ホームページが充実していて学校の取組がよく分かる。小学校に出前授業に来ていただいて感謝している。子どもたちも喜んでいて。保護者から、わくわく体験教室は今後も続けてほしいとの要望があった。高校時代にもものづくりの素晴らしさを経験できるのは良いことである。
- なるべく多くの保護者が学校に来てほしいと考えPTA活動に取り組んできた。ホームページも作ったが活用ができていない。家庭でできることは家庭でしっかり取り組む必要がある。

4 新タイプ校教員向けアンケート結果

【対象】「県立高校改革推進計画」に基づき、平成15年度～平成21年度に開校した、新しいタイプの県立高校31校の常勤教員

【対象校】別紙参照（※全日制課程と定時制課程で学科が異なる高校1校を含むため、合計は一致しません。）

資格取得による単位認定についての情報提供や、進路や悩みを相談できる体制の整備は「十分にできている」「できている」「概ねできている」と回答した「達成群」は80%以上あり、校種の特徴を活用し、多様な学習機会の拡大や生徒一人ひとりのニーズにより一層きめ細かく対応した取組の成果といえる。

一方で、「生徒が自分の興味・関心や進路希望に基づいて、新タイプ高校の校種の長所の活用」、「校外学習や地域との連携など、地域の教育資源を学校での教育活動へ活用する能力」についての達成群が約72%（平成22年度は約68%）と、やや低い結果となった。

※肯定群とその内訳の合計は、端数処理上、一致していない場合があります。また、内訳の合計が100にならない場合があります。

